

2024. 9. 12 アリの巣できないかな？

今週初め、一人の年長児 Y 男が友達と一緒に園庭で石発掘をしていました。すると、その Y 男は園庭の地面に小さな山があることに気がきます。「先生！これはなに？」と聞いてきました。

教師は「何かな？」と一緒に考えていると、その山の中央にある小さな穴からアリが一匹出てきました。Y 男は「あ！ありのおうち？」と気がきます。そして、よく見ると園庭のいろいろな場所にこの小さな山ができていることに気がきます。それと同時に、「ぼく、年中さんの時にアリさんの巣の横に砂糖を置いたよ！」と Y 男。

教師も Y 男が砂糖をあげたことを思い出し、「もう一回上げてみる？」と Y 男に聞きます。Y 男は「うん！」と嬉しそうに砂糖をもらおうと、巣の近くに少し砂糖を置きました。すると「あ！アリさん運んだ！」とアリが砂糖を運んでいる姿を見て、興味津々。その日のみんなの時間にアリの巣について Y 男と一緒に教師も全体に紹介し、「アリの巣って地面の中でどんな感じなんかな？」と問いを投げかけます。

次の日の朝、教師はアリの巣用のケースを用意しました。それを朝見つけ Y 男を含め年長男児 4 名が、園庭へ行きアリの巣作りを始めます。ケースに土をいっぱい入れ、そこにアリを捕まえて入れていきます。アリはどこでもスタスタ歩くので、ケースの蓋を閉めない限り、すぐに出ていってしまいます。そのことに気づき、アリを捕まえると、そっとケースを開け、すぐにアリを入れるという風に子供たちも考えながら捕まえていきます。その横で、A 男は、図鑑を持ってきて、アリの巣の絵を見ながら「アリの巣の中に、虫の死骸があるみたい！餌として取っておくのかな？」「ケースに黒い紙をしないといけないみたい！」などいろいろな気付きもあります。H 男は「アリ地獄完成！」と穴を掘って、その中に砂糖を入れています。一方、H 子と N 子は、大きな虫かごに逆さにした小さい虫かごを入れ、その周りに土を入れます。それは違う本に載っていたアリの巣の作り方です。みんなそれぞれにアリへの興味を高めています。教師はその後のみんなの時間で、3 つのアリの巣作りのケースを紹介しました。

次の日、朝来ると子供たちはアリの巣を確認します。するとその中の一つにトンネルのようなものができていました。「え！これもしかしてアリの巣？」と子供たち。でも確証はなく、ずっと見ているとそのトンネルの部分に一匹のアリが通ります。

「あ！アリがいた！やっぱりアリの巣ができてきてる！」と大興奮。それを見た A 男は「もっとアリの巣できる



かな？」と黒い画用紙をセットしました。

アリの巣の知識はみんななんとなくあります。土の中にいろいろな部屋があることも絵本や図鑑などで知っている子もいます。その知っていることが、現実の世界として目の前で作られていく面白さ。知識が自分なりの手ごたえと変わっていきます。そこに心が動いていく子供たちの姿が印象的でした。図鑑みたいにきれいなアリの巣はできないかもしれませんが、普段見ることができない土の中の世界に触れることができるワクワク感もあるのかもしれません。

これからもアリの世界を子供たちと一緒に探究していきたいと思っています。

